佐倉市GIGAスクール構想の実現へ
～一人一台端末は令和の学びの「スタンダード」～

GIGAスクールとは、令和元年12月に文部科学省が発表した一連の教育改革案のことです。
GIGAは「Global and Innovation Gateway for All」（全世界とイノベーションへの扉をすべての子どもたちへ）の略語です。

佐倉市教育委員会

ＧＩＧＡスクール構想

✓ １人１台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する

✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

※文科省「GIGAスクール構想の実現へ」より

佐倉市教育委員会

佐倉市GIGAスクール構想

教育ビジョンに基づく施策「学力向上・学習内容の充実」

「わかる授業」「楽しい授業」を実践し、「もっと学びたい」という意欲を高めるとともに、各教科や総合的な学習の時間では、自ら課題を見つけ自ら解決する力や学びあいなどを通じてコミュニケーション能力を育てていきます。また、家庭との連携を図りながら学習習慣の確立に努めます。

さらに１人１台タブレット端末で

佐倉市の教育が変わる！

さらに「わかる授業・楽しい授業」へ

佐倉市教育委員会

佐倉市GIGAスクール構想学びのイメージ

学びのステップアップ

ステップ４　教科の学びをつなぐ・社会課題等の解決・夢の実現
例）大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び（遠隔授業）

ステップ３　教科の学びを深める・教科の学びの本質に迫る
※ 双方向型一斉授業
例）・動画撮影で、振り返りやよりきめ細かな分析を可能にする。
・各自で収集した様々なデータをPC上で重ね合わせて深く分析する。

ステップ２　「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる１人１台端末
例）・検索サイトを用いて、授業テーマに応じて様々な文章や動画を収集する。（調べ学習）
・情報の真贋を判断し、整理する。（情報モラル教育）
・文章作成ソフトを活用し、推敲を重ねて長文のレポートを作成する。（表現・制作）

ステップ１　使う・慣れる
例）・使い方を知る・ちょっとしたことを調べる・メッセージを送る

佐倉市教育委員会

学びへの活用　ＩＣＴの「学び」への活用

“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも”使えるＩＣＴ

検索サイトを活用した調べ学習

・一人一人が情報を検索し、収集・整理
・子供たち自身が様々な情報にアクセスし、主体的に情報を選択する

文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用

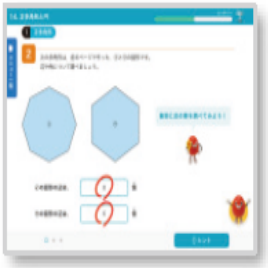
・子供たち一人一人が考えをまとめて発表
・共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合い

一斉学習の場面での活用

・誰もがイメージしやすい教材提示
・一人一人の反応や考えを即時に把握しながら双方向的に授業を進める

一人一人の学習状況に応じた個別学習

・デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化
・様々な特徴を持った生徒によりきめ細やかな対応を行う



※文科省「GIGAスクール構想の実現へ」より

佐倉市GIGAスクール構想に向けて

＜令和6年度の予定＞

時期	予定
令和６年度中	全小・中学校の体育館にアクセスポイントを整備
６月以降	新校務支援システムの整備
８月以降	現学習支援システムのアップデート

＜次年度以降の予定＞

時期	予定
令和7年9月	学習用タブレットパソコンの全台置き換え
令和7年12月	校内ネットワークの置き換え・増強

活用場面

A　一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

A1 教員による教材の提示

画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B　個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B1 個に応じる学習

一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動

インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

B3 思考を深める学習

シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B4 表現・制作

マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B5 家庭学習

情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C　協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

C1 発表や話合い

グループや学級全体での発表・話合い

C2 協働での意見整理

複数の意見・考えを議論して整理

C3 協働制作

グループでの分担、協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習

遠隔地や海外の学校等との交流授業

※「学びのイノベーション事業」実践研究報告書（平成26年）より

佐倉市教育委員会

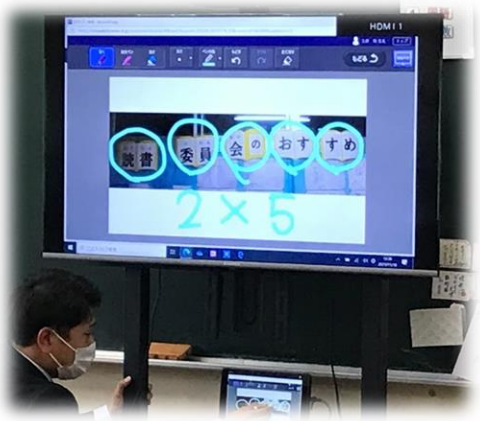
職員研修

講師を招いての研修

操作・活用研修

教職員同士のオンライン研修

授業実践



教材の提示

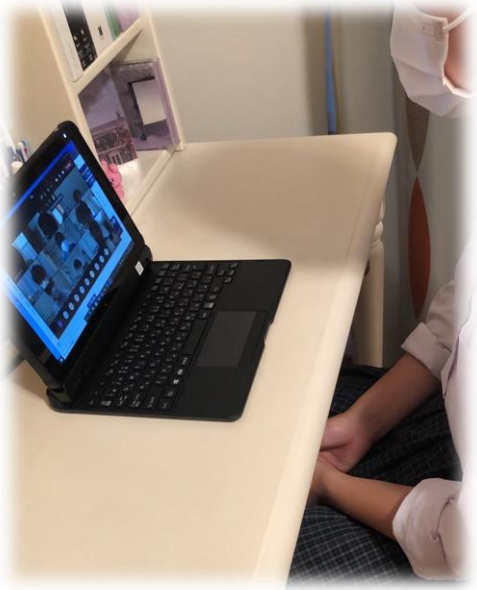
発表・教え合い学習

ノートとタブレットの併用

モデル校の授業参観

佐倉市教育委員会

オンライン配信



学校と家庭の
オンライン通信

オンラインによる授業配信

オンラインによる
学活・健康観察

佐倉市教育委員会

令和6年度の目標

児童生徒の目標

①学習支援ソフトの有効活用

○アップデートされた学習支援ソフトを各学習で有効活用できる。

②学びのステップアップ

○児童生徒が個々の学習状況・内容に応じて、ステップ2、
ステップ3、ステップ4を選択し、活用できる。

令和6年度の目標

教職員の目標

①実践の共有

○佐倉市のHPを整備し、実践例（授業実践、家庭学習）を紹介する。

②授業にICTを活用して指導する能力　肯定的回答85%以上達成

○授業に合わせた資料を効果的に提示できる。

○児童生徒の意見を効果的に提示できる。

○学習用ソフトウェアを使って習熟学習ができる。

○協働学習で、PCやソフトを活用できる。